

# 計画停電による溢水防ぐ【町田市】

## マンホールポンプ 制御盤が威力発揮

町田市上下水道部は、東京電力管内の計画停電の対応として、庁内で遠隔制御できるマンホールポンプ制御盤などを活用して溢水を防ぐ対策をとった。同市では、計画停電が6回（1回あたり約3時間）実施されたが、対策を講じたことで溢水はなかった。

同部は、東電から計画停電実施区域が示された際に、溢水の危険がある2395世帯の住民に対し計画停電実施時間帯に水の使用を抑えるようお願いするチラシを作成し、12班体制（1班4名）で配布した。

計画停電実施時間帯には、流入量の多い施設を中心に庁舎内のパソコンで遠隔制御し、マン

ホール槽内の汚水をあらかじめ圧送しておく対策をとった。同部担当者は「当市では35カ所あるマンホールポンプのうち、25



庁内のPCから遠隔制御している

カ所が庁内のパソコンや携帯電話から遠隔制御できるようになっている。限られた職員で全箇所を確認しながら、事前に汚水を吐かせることはできないので、今回の計画停電や災害時にはなくてはならない機能」と説明する。

また庁内のパソコンや携帯電話から各マンホールポンプの水

位情報を見ることができたり、どのポンプが停電しているのか一目で把握できるため、計画停電の際には対応しやすかったとしている。さらに復電した際の水位が即座に把握できることから、迅速な対応が可能だ。

同部は、平成13年に小松電機産業の上下水道遠隔システム「やくも水神」のマンホールポンプを導入。今後も災害対策を強化するため、更新に合わせ残りのマンホールポンプにも導入していく計画。なお、同製品は、下流側のマンホールポンプが満水の場合は、送水待機命令を出す上流停止機能を標準装備し、最近では停電対応機能も付加された。

また、同部は東電と締結している緊急時調整契約に基づき、成瀬クリーンセンターの焼却炉を3時間停止するなど、電力の2割削減を行い、節電に貢献した。